

教育研究現場の 安全衛生活動を推進する



環境安全管理室は東京大学の法人化に伴い2004年4月から各部局に置かれ、部局の安全衛生管理活動を推進・支援しています。2005年度に発生した潜水作業中の死亡事故という痛ましい事故等の反省の上に立って、安全衛生管理システムを見直し強化して参りました。2006年度から野外活動を行う研究室に対し安全衛生管理計画書の事前提出を義務づけ、年間700件から900件の計画書を1件ずつ検討しています。また、研究分野、研究手法ともに多様で、多彩な活動を行っている当研究科では、教育研究安全衛生マネジメントシステム(MS)を全学に先駆け2006年度に4研究室で試行し、2007年度から全研究室に導入しました。MSの主な目的は潜在的な危険有害性の評価(リスクアセスメント)と安全確保技術の伝承により事故災害を防止し快適な環境を形成することです。これらの活動を推進することにより、教職員・学生の安全意識は高まってきたと思います。

他にも新入教職員安全衛生健康ガイダンス、化学物質・廃棄物の管理状況の確認・指導、不要な試薬や物品の廃棄、保護具の着用促進等を通じて、法令・学内ルール等を守る事故災害の起こらない研究室作りを支援しています。昨年度は東日本大震災の教訓を踏まえ、総合防災訓練では大地震発生を想定し学生も含む全研究室員が一時集合場所に避難し安否確認を行う訓練を、また転倒落下防止工事や階段下降用担架の導入も行いました。

「安全第一」の考え方が国内に入ってきてから昨年でちょうど100年になりました。「安全第一」の次には「品質第二」、「生産第三」と続きます。ときおり耳にする「効率」は三番目に入ることを中心して。「安全なくして教育・研究なし」

大学院農学生命科学研究科 環境安全管理室 副室長
高橋勝彦 特任教授